



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

WBC特別展開催

館長 廣瀬 信一

第4回WBCに出場した侍ジャパンは、3月7日(火)から東京ドームで行われた1次リーグ、2次リーグを6戦全勝の成績で突破しました。

当館では、WBC開催に伴い、2月7日(火)から4月9日(日)にかけて侍ジャパン応援企画「WBC展」を開催、また2月23日(木)には、必勝を祈念し当館オリジナルの「野球守」を合宿地の宮崎にお届けしました。また、館内の企画展示室では、2006年・09年優勝トロフィーや決勝戦ウイニングボールをはじめ、数々の激闘を戦い抜いた選手たちの用具、当時の興奮を伝える資料などを展示しました。休憩コーナーとシアターでは連覇した2大会のダイジェスト映像を流し、応援の機運を盛りたて、さらに、殿堂ホールには筒香 嘉智選手、菅野 智之選手、坂本 勇人選手の等身大パネルを展示し、来館のみなさんに記念写真を撮っていただいたり、大きさの実体験をしてもらうなど、今までにない展示でWBCに興味を持って頂くよう工夫しました。また、試合の興奮が冷めないうちに、全ての勝利試合では、前回大会同様に監督直筆のサイン入りウイニングボールを当日に受取り、翌日にはエントランスホールで展示しました。



左：侍ジャパンを代表して鈴木 誠也選手に「野球守」を贈呈
右：エントランスホールに展示されているウイニングボール



大野 豊氏のトークショー

初戦のキューバ戦があった3月7日(火)には、館内イベントホールにおいて、2013年殿堂入り、04年アテネ五輪、08年北京五輪の2大会で日本代表投手コーチを務めた大野 豊さんによるトークイベントを開催しました。

WBCの初戦ということもあり大勢の来館者で賑わい、幾重にも立ち見ができるほど大盛況でした。

アメリカとの準決勝は1-2と惜敗し、前回大会と同じベスト4でしたが、TVの高視聴率でも分かるとおおり、緊迫した好ゲームの連続で改めて野球の素晴らしさが日本国中に伝わった大会であったと思います。

「WBC展」開催記念 大野 豊氏 (2013HOF) トークイベント

侍ジャパン応援企画「WBC展」の開催記念イベントとして、WBC 1次ラウンド プールB開幕の日本対キューバ戦が開催された3月7日(火)、2013年殿堂入りの大野 豊氏によるトークイベントを開催しました。

WBCの見どころや、実物のWBC使用球を使って、日本のボールとの違いを分かりやすく解説してくださいました。



最後に、今年の日本プロ野球の順位予想もあり、100人を超えるお客様を前に、1時間、楽しいお話をお聞かせくださいました。

春休み親子グラブ製作教室

4月3日(月) 13:30~親子で軟式少年用グラブの製作(ひも通し)をするイベントを当館のイベントホールで行いました。本イベントは毎年夏休みに開催していますが、毎回多数のお申込みをいただき抽選となっているため、ミズノ株式会社様のご協力のもと、今回初めて春休みにも開催することになりました。

当日は、小学生とその保護者10組がミズノのスタッフ指導のもと、グラブ製作の最後の工程である「ひも通し」を体験しました。



ゴールデンウィークのお知らせ

ゴールデンウィーク期間中、次のようなイベントを行います。皆さん、ぜひいらして下さい。

5月 3日(水)・4日(木) ▶▶ バット製作実演
3日(水) … 11:00~、13:30~、15:00~
4日(木) … 10:30~、12:00~ (予定)

5月 5日(金) ▶▶ バッターボックス体験にチャレンジ!
11:00~ (受付は10:30開始)

「球団デー」開催!

今年も下記の日程で、球団デーを開催します!!

詳しくは当館ホームページ (<http://www.baseball-museum.or.jp>) をご覧ください。

4月21、22、23日 ……………阪 神	6月16、17、18日 ……………ロッテ
4月25日、26日 ……………楽 天	7月1、2日 ……………DeNA
5月12、13、14日 ……………日本ハム	7月3、4日 ……………西 武
5月16、17、18日 ……………ヤクルト	7月31日、8月1日 ……………ソフトバンク
5月26、27、28日 ……………広 島	8月4、5、6日 ……………中 日
6月2、3、4日 ……………オリックス	8月8、9、10日 ……………巨 人

もの
知ってほしいこんな資料 (87)

1940年 東亜競技大会 児玉利一着用 日本代表ユニホーム

「東亜競技大会」は「極東選手権大会」(1913年～34年まで10回開催)が消滅した後に、日本が中心となり開催された国際的な総合スポーツ大会。1940年と42年の2回のみ開催されました。40年は6月に東京と関西(奈良、兵庫)で行われ、野球競技には日本、満州(奉天満州倶楽部)、フィリピン(カランバ製糖軍)、ハワイ(ハワイ朝日軍)の4チームが参加しています。

日本代表チームは別表の通り、東京六大学から25名の選手が選抜されました。内訳は明大8、慶大7、立大4、早大4、法大2名で、この40年春のリーグ戦が慶明立3校同率で優勝預かりとなっており、チーム力の充実した大学から多く選抜されているといえます。監督は明大監督の谷沢 梅雄、主務として慶大監督の森田 勇、主将には明大の亀田 重雄、会計として慶大主務の正力 亨(後の読売巨人軍オーナー)も参加しています。



日本代表は、6月6日(神宮)日本4-3ハワイ、7日(神宮)日本5-3満州、8日(神宮)日本8-1フィリピン、14日(甲子園)日本7-2ハワイの4試合を戦い、全勝の成績を収めました。

今回ご紹介するのは、この大会で児玉 利一選手(明大)が着用したユニホームです。上着とパンツ、それから入場式で着用した帽子とネクタイを、1995年にご本人からご寄贈いただきました。

上下ともイシイカジマヤ製。胸には「NIPPON」とフェルトが縫いつけられています。上着の左袖には国旗と番号がついていますが、背中には背番号は付いていません(外れたような縫い跡もなし)。当時の東京六大学では背番号を採用していませんでしたので、おそらく、袖番号のみ採用されたのではないのでしょうか。

※背番号導入は59年春

位置	名前(大学)
投手	佐藤 平七(法)、西郷 準(立)、石黒 久三(早)、高木 正雄(慶)、高塚 誠治(慶)、藤本 英雄(明)
捕手	町田 徹夫(立)、小野 欣助(早)、井上 親一郎(慶)、松井 勲(明)
一塁手	村上一治(法)、加藤 三郎(明)、児玉 利一(明)

位置	名前(大学)
二塁手	宮崎 要(慶)、亀田 重雄(明)
三塁手	宇野 光雄(慶)、阿瀬 泰次郎(明)
遊撃手	柚木 俊治(立)、大館 盈六(慶)
左翼手	松井 栄造(早)、加藤 春雄(明)
中堅手	浅井 礼三(早)、中田 武雄(慶)
右翼手	田部 輝男(立)、伊藤 庄七(明)

※青字…戦没者、赤字…後のプロ野球選手

この大会の翌41年12月には太平洋戦争がはじまりました。43年には東京六大学野球連盟は解散となり、学徒出陣により多くの学生が戦地に向かいました。25名の選手のうち、当館内の戦没野球人のモニュメントにお名前が刻まれているのは、青字で表示した8名です。

後にプロ野球選手となったのは赤で表示した10名です。児玉氏は戦後の1951年に中日に入団、中心打者として54年の中日の日本一に貢献しました。

また、このチームからは、藤本(中上) 英雄氏が76年に野球殿堂入りしています。

事業部 学芸員 関口 貴広

こんにちは図書室です

明治時代の記録法

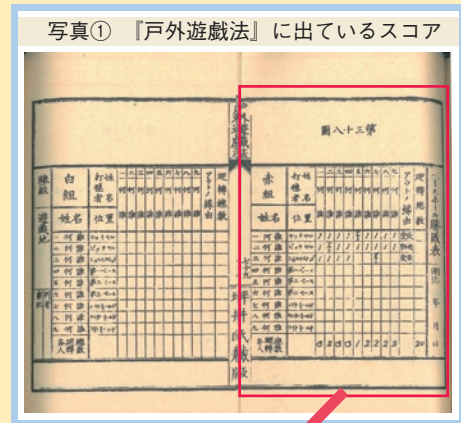
今回は明治時代の記録法について、ご紹介したいと思います。

野球の試合を記録するボックススコアは1863（文久3）年にヘンリー・チャドウィック（アメリカ野球殿堂入り）が考案しました。1872（明治5）年にホーレス・ウィルソン（2003年野球殿堂入り）によって日本に野球が伝えられる9年前の事です。

日本で初めて野球を紹介したといわれる本は1883（明治16）年に英語で書かれた洋式スポーツ書『Outdoor Games』です。野球のプレーヤールールについて紹介していますが、記録法についての記載はありません。

日本語で書かれた最初の洋式スポーツ書は『西洋戶外遊戯法』（下村 泰大編集、1885年3月発行）といわれています。この中に試合の記録について、具体的に説明はありませんが、「書記職務」の項目があり試合を記録する人がいた事がわかります。

しかし、『西洋戶外遊戯法』と同じ年の翌月に発行された『戶外遊戯法』（坪井 玄道編集）にはボックススコアに似たような表（写真①）が掲載されています。



「打球者姓名の右にある一二三等の数字は打球者の順序を示すものにして、この内三人アウトとなりたるときは、皆キャッチャーあるいはピッチャーなどの位置に移り前のキャッチャー及びピッチャーなどは打球者となりその味方の内、三人アウトとなるまでは循環して打球するの権利を有するものとす。

また右の帳簿は赤組をもって打球者と見なして記入したるものにして、その回転数を20とす。そして、次に打球する所のもの即ち白組は右同数以上を回転すれば勝利となり、ならざる時は敗北となすものなり。そして、その回転の数双方同じ時は勝敗なきものなり。故に更に紅組これに代わりて打球者となり、また回転をするものとする。」



この説明によれば、赤組の一番バッターの下に書いてある1は回転数、すなわちホームに戻ってきて、得点が入った数を表しており、このバッターは3回打席に立ち、出塁し、3得点したということになります。五番バッターと六番バッターの三巡目が空欄となっていますが、これは出塁はしましたが、七番バッターがアウトになり三人アウトでチェンジになったためと考えられます。

この試合の勝敗ですが、白組は20点以上で勝利、届かない場合は負け、同点の場合は延長戦へ進むようになっており、9イニング制ではなさそうな書き方になっています。しかし、次のページから始まる規則では、9イニング制となっています。規則とスコアのつけ方で参考にした資料が違っていたのでしょうか？

明治時代の野球には、まだまだわからないことがたくさんありそうです。

事業部 司書 茅根 拓

殿堂入りの人々を語る(55)

「今知る、野球人の父」

鈴木 貴彦 (2017年野球殿堂入り 鈴木 美嶺氏次男)



鈴木 美嶺氏

父が亡くなって25年たった今年、突如私たち家族に「野球殿堂入り」の知らせが届いた。各方面からの問い合わせや取材にあたふたと対応しながら、私は自分が父親のことをあまりにも知らないという事実気づいた。新聞記者として、野球規則委員として、どんな思いで野球と向き合ってきたのか…。私にとって父は父でしかなく、野球人・鈴木 美嶺氏の人物像を尋ねられても、語るべき情報が少なすぎて、正直苦勞した。

この間、東京・練馬の実家に何度か行き、父の書齋に入った。机と椅子は当時のままで、引き出しには愛用の万年筆。書庫には本や雑誌、スクラップブック、取材用の大学ノートが何十冊も詰め込まれていた。

ほこりを払いながらノートをめくる。「悪筆」で知られていたらしいが、どのページにも斜めに傾いた癖のある文字が並んでいた。ただし、どの文字もはっきりと読み取れる。インタビュー取材のメモは、そのまま記事に

できるほど文章が整っている。米国出張の際にしたためのメモ代わりの「日記」は、ユーモアあふれる筆致が印象的で、仕事を楽しんでいる様子が伝わってきた。大リーグ情報のスクラップには膨大な数の英文記事が貼りつけられ、あちこちに線が引かれ、英語のメモが記されていた。

直筆というのは誠に不思議なもので、まるで録音テープのように、その当時の書き手の思い、書き手の置かれた状況を感じ取れる。40代、50代のころの父の息遣いが伝わってきた。それは同時に、私がよく知らなかった仕事をしている「野球人としての父」の姿でもあった。

続いて雑誌「週刊ベースボール」の父の記事を読み始める。全国各地の野球チームを紹介する連載企画だろうか、多くの選手や監督が登場し、野球への思いやチームの歴史が語られる…。ページをめくりながら、野球記事というより、小説を読んでいるような面白さを感じた。精緻な人物造形と心理描写、そして豊かな物語性を感じさせる筆の運びだ。

ふと、私は高校生のころの父との会話を思い出した。「若いころからずうっと、いつかは小説を書きたいと思ってたんだよ」。父の秘めた思いに触れ、永遠の文学青年である父に出会ったような気がして、うれしかったものだ。言われてみれば、仕事をしていない時の父はいつも小説を読みあさり、夜は安いウイスキーを飲みながらテレビで映画やドラマを見ていた。中でも西部劇やサスペンス、「コンバット」「スパイ大作戦」など外国の映画やドラマが大好きだった。

父の本棚には膨大な書籍が並んでいたが、ほとんどが小説や歴史もの。終戦後、父は大学を卒業してから一時期、映画専門の出版社「キネマ旬報」に勤めた。大好きな映画で食っていこうとしたのかもしれないな、と今になって思う。先日、兄から聞いた話では、父は晩年、小説の構想を温めていたという。「いつだったか、書き出しの部分を読ませてくれたよ」と兄は言う。

野球を愛した父。神宮や甲子園の記者席で、同僚たちから「幽霊が出ない日はあっても、美嶺さんが出ない日はないね」と冗談が飛び交うほど、父はいつも野球場にいた。スコアブック片手に選手たちのプレーを記録しながら、記事を書き続けた。「充実してるねえ」。父が50代の後半、私が高校3年生ぐらいの時、今の仕事はどうなのかと尋ねた時の父の答えだ。

父は病に倒れ、70歳でこの世を去った。未完の小説のことを考えると、もう少し生きてほしかったと思う。しかし、父が悔い無き野球記者人生を送ったことは間違いない。今回、「殿堂入り」をきっかけに父の足跡をたどり、そう確信することができた。「殿堂入り」の知らせに、天国の父は少し照れながらも、きっと誇らしげにほほ笑んでいることだろう。

野球殿堂博物館 トピックス (2017年2月~4月)

【企画展「野球報道写真展 2016 ベストショットオブザイヤー」】投票結果

第1位

マウンドの前で感極まる黒田

時事通信社 森 瑞葉



2016年12月17日(土)~2017年1月29日(日)に開催した「野球報道写真展2016 ベストショットオブザイヤー」の投票結果

■最終結果

	タイトル	加盟社・カメラマン	得票数
1	マウンドの前で感極まる黒田	時事通信社 森 瑞葉	202
2	夕日に向かって	報知新聞社 頓所 美代子	201
3	イチロー 日米通算4257安打	日刊スポーツ 菅 敏	169
4	広島優勝 抱き合う黒田と新井	共同通信社 神原 孝彦	157
5	サヨナラ満塁弾の西川	共同通信社 神原 孝彦	151
6	サブロー、引退セレモニー	報知新聞社 川口 浩	122
7	三浦大輔、涙の引退試合	毎日新聞社 宮間 俊樹	111
8	究極の二刀流	スポーツニッポン 岡田 丈靖	102
9	ボールはどこへ!?	スポーツニッポン 三島 英忠	91
10	165キロ	サンケイスポーツ 高橋 茂夫	90

表彰

企画展「野球報道写真展2016」のベストショットオブザイヤー表彰にて、時事通信社・森 瑞葉氏撮影の「マウンドの前で感極まる黒田」(写真左上)が投票総数2,972票中、202票を獲得し第1位に選ばれました。4月10日(月)、野球殿堂ホールにて表彰式を開催し、廣瀬館長から表彰状と記念品を贈呈しました。

森氏のコメント

「私のカメラマン人生における初受賞がベストショットオブザイヤーとなりとても嬉しいです。今年もよい写真が撮れるように努力していきたいです。」



左から 廣瀬館長、時事通信社 森 瑞葉カメラマン、山本 浩写真部長

来館



3月8日(水)、アメリカ野球博物館の館長・J.アイルソン氏と博物館のカメラマン・J.フルーツ氏が来館し、関口学芸員の展示解説で2時間余りをかけて館内を見学されました。アイルソン氏は日本の野球文化とWBC取材のため、3月1日(水)から10日(金)の日程で、ミズノのバット工場やリトルリーグ東京連盟開幕式、甲子園球場と甲子園歴史館等、各地を訪れました。なお、日本視察のようすはアイルソン氏のブログ「Baseball in the Land of the Rising Sun」は (<http://baseballhall.org/discover/baseball-in-land-of-the-rising-sun>) でご覧になれます。

2017年度の維持会員を募集中!

「公益財団法人 野球殿堂博物館」(旧・財団法人 野球体育博物館)では、当館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただく「維持会員」の制度があります。会員には次のような特典があります。

1. 会員の特典

- 当博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
- 何度でも無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- イベント情報などを優先的にご案内します。
(2016年度は、野球殿堂入り記者発表、開幕記念トークショー、川上哲治展記念トークショーなどを優先的にご案内し、お席をご用意しました。)
- 博物館で販売している商品が10%引きになります。
*法人・個人会員には上記の特典のほか、ご入会時に『野球殿堂2015』を進呈します。(ジュニア会員を除く)
*ジュニア会員には上記の特典のほか、ご入会時に「野球殿堂博物館オリジナルピンバッジ」を差し上げます。



2. 会員の種類と会費

- 年会費(4月～翌年3月迄)
- 法人会員……………1口 100,000円
 - 個人会員……………1口 10,000円
 - ジュニア会員(小・中学生)……………2,000円

3. ご入会の方法

- 館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。
「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
- “入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ: 博物館 業務管理部 (TEL 03-3811-3600)
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

▶ 理事会

3月8日(水)に東京ドームホテルにて開催し、議題をご承認いただきました。

- 議題1 平成29年度事業計画案及び収支予算案について
- 議題2 評議員選定委員会委員の交代について
- 議題3 新評議員候補者について
- 議題4 会議日程等について
- 報告1 理事長及び業務執行理事からの職務の報告
- 報告2 職員退職並びに採用について
- 報告3 「野球殿堂博物館リニューアル検討委員会」について

以上

▶ 新職員紹介

4月1日付で、新人2名が入りました。



矢野 翔悟 神奈川県出身
《略歴》

明治大学 情報コミュニケーション学部 2015年卒
一般企業に就職し、2017年4月1日より当館の業務管理部に勤務



森澤 ひかる 東京都出身
《略歴》

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 2016年卒
筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科博士前期課程 2016年入学
2017年4月1日より当館の事業部に勤務

▶ 退職

当館の学芸員として勤務していました林 真美が2月28日付で退職いたしました。

● 野球守

一体 800円(税込)



「野球守」を販売しています!
「ケガをしないよう」、「野球が上手になるよう」、「野球の試合に勝てるよう」等、みなさまの野球を応援するお守りです。袋の中にはグローブの革で作られた内符が入っています。なお、返納箱をご用意しておりますので、昨年の「野球守」をお持ち下さい。

▶ 販売中

- **ポストカード** 1枚 100円(税込)
- 下記の方々のポストカードを販売いたしております。
ご来館記念、または野球好きな方へのお便りにいかがでしょうか?
現在、メンバーは30名ですが、今後まだまだ増やしていく予定です。
ご期待下さい。



秋山 幸二	稲尾 和久	王 貞治	仰木 彬	大下 弘	大野 豊
落合 博満	金田 正一	川上 哲治	衣笠 祥雄	工藤 康康	小山 正明
斎藤 雅樹	佐々木 主浩	沢村 栄治	杉下 茂	長嶋 茂雄	中西 太
野村 克也	野茂 英雄	張本 勲	福本 豊	古田 敦也	三原 脩
村田 兆治	村山 実	山田 久志	山本 浩二	吉田 義男	若松 勉

(敬称略・五十音順)

博物館のご案内	場 所	東京ドーム21ゲート右
	開館時間	3月1日～9月30日 AM10時～PM6時 10月1日～2月末日 AM10時～PM5時 (入館は閉館の30分前まで)
	入館料	大人 600円(500円) } ()は 高・大学生 400円 } 20名以上の団体 小・中学生 200円(150円) 65歳以上 400円
	休館日	月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館) 年末・年始(12月29日～1月1日)
	《5月・6月・7月の休館日》	5月 1日・8日・15日・22日・29日 6月 12日・19日・26日 ※6月27日(火)から9月3日(日)まで休館日はありません。

●編集後記 新しい年度になり、博物館にも新人が入りました。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。
紙面の都合上「コラム博覧/博楽」は休載します。

野球殿堂博物館 Newsletter 第27巻 第1号

2017年4月27日発行(年4回発行)
編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
(旧・財団法人 野球体育博物館)
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

リレー随筆(66)

将来の〇〇世代のために

競技者表彰委員会幹事 吉村 良二 (朝日新聞社)

今、高校野球で「ミレニアム世代」と呼ばれる学年があるのをご存じだろうか。今春の選抜大会の取材で耳にするまで知らなかったが、現在の高校2年生を指すそうだ。「ミレニアムイヤー」として話題になった2000年生まれが中心の学年(00年4月から01年3月生まれ)。この学年には逸材がそろっているという。

選抜では早稲田実の清宮 幸太郎選手(3年)が大いに注目を集めたが、試合を見ていると確かに2年生の活躍が目立った。史上初の「大阪対決」を制した大阪桐蔭は、先頭打者本塁打を含む2本塁打を放った藤原 恭大選手ら2年生が中軸として活躍。選抜に出場しなかった学校にも、プロ注目の2年生は多く、来秋のドラフトは大豊作になると早くも注目されている。

「〇〇世代」といえば、球界では「KK世代」「松坂世代」「マー君世代(ハンカチ世代)」が知られている。こうした黄金世代が生まれた背景には、どんな要因があるのだろうか。

私は1966年生まれで、学年でいうと「KK世代」の1つ上。九州出身だが、テレビは毎晩、巨人戦のナイター中継だった。物心ついた時には近所の子供たちといっしょに野球で遊んでいた。ヒーローは王 貞治選手。みんな一本足打法をまねて打っていた。77年の756号本塁打達成の時は、大人たちといっしょに大喜びしたことを覚えている。

「KK世代」も、やはり王選手に憧れ、私と同じように野球に熱中していった選手が多かったと思う。私の勝手な推測だが、幼少期に「王選手の本塁打世界記録」という熱狂を体験したことが、「KK世代」を生む素地を作ったのではないだろうか。

80年生まれの「松坂世代」はどうだろう。KKコンビのPL学園が甲子園で優勝し、阪神フィーバーが巻き起こったのが85年。85年から86年にかけてバース選手と落合 博満選手が2年連続三冠王を獲得し、落合選手は初の年俵1億円プレーヤーとなった。西武の工藤 公康投手、渡辺 久信投手らが「新人類」と呼ばれ、新たな黄金時代を築くのが80年代後半だ。88年生まれの「マー君世代」にとって野球の原風景は、イチロー選手や野茂 英雄投手になるのだろう。イチロー選手が彗星のごとく現れ210安打を放ったのは94年。95年は野茂投手が海を渡り、大リーグで「トルネード旋風」を巻き起こした。

そして、「ミレニアム世代」。彼らが幼稚園児だった06年は、甲子園で早稲田実の斎藤 佑樹投手が活躍し、「ハンカチブーム」が起きた。06年にはもうひとつ、間違いなく影響を受けたであろうイベントがある。ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)だ。日本は第1回大会決勝でキューバを破って優勝を飾った。決勝の視聴率は43.4%(ビデオリサーチ調べ、関東地区)を記録。09年の第2回大会も、韓国との決勝を制して2連覇を達成。「ミレニアム世代」は、幼少期にWBC連覇の熱狂を目の当たりにしている。

今、少子化で野球人口の減少が懸念されている。実際、中学校の軟式野球部員数が急激に減少。日本中学校体育連盟の調べでは、09年まで約30万人で推移していた選手数が、16年は18万人台まで落ち込んだ。自然に覚えらる遊び場が少ないことや、指導者不足などが指摘されている。こうした現状で、子供たちが野球を始めるきっかけとして、侍ジャパンは大きな意味を持つのだと思う。今回の第4回WBCで、日本は東京ラウンドを全勝で突破した。名勝負が多く、原稿を書く立場の私も十分に野球を堪能した。残念ながら世界一は奪還できなかったが、世界トップレベルの実力を示した。世界一を争う舞台は、普段は野球を見ない人たちも振り向かせた。

先日、大学時代の野球部の同期がうれしそうに教えてくれた。WBCを見た中学2年生の娘が野球に興味を持ち始めたという。反抗期を迎え、父親をあまり相手にしなくなった娘が、「プロ野球観戦だったら一緒に行ってもいいよ」と言い出したそうだ。そんな家庭は、きっとたくさんある。

今回、侍ジャパンの活躍を見て、父親とキャッチボールを始めた子供たちも多いと思う。そんな彼らが野球を続けていく環境作りに、野球界はよりいっそう力を注いでいかなければならない。今の子供たちが将来、「〇〇世代」として球界を引っ張る存在になることを、願っている。